

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○3月9日～

イランに対する米国とイスラエルの攻撃で中東が大変なことになっています。

ホルムズ海峡は閉鎖され、船が動けない状態が続いています。

ロシアや中国の船は通過を認めるという話もあるようです。米国が船を護衛し、追加の保険費も支払うというような提案をしていますが、イランは通過する船は攻撃すると言っているため身動きが取れない状態です。

トランプ大統領は1か月程度で作戦を終えるというような事も言っていました、かなり長期になるというような事も言い始めています。

長引けば原油価格は大きく上昇していきます。

また、カタールが液化天然ガス(LNG)の生産を停止したということで、カタールからLNGを輸入している日本の電力会社にも影響が出てくるかもしれません。すでに先週、原油価格は大幅に上昇しています。

さらに、気になるニュースとしては、プライベート・クレジット市場での信用不安問題です。

これは、サブプライム・ローンと似たような構造です。

プライベート・クレジットは、信用力が低い中堅企業が銀行から借りずにファンドから直接融資を受けることです。企業の業績悪化からファンドの運用が上手くいかず、ファンドの解約や破綻などが連鎖的に起こればサブプライム・ショックと同じように信用不安が広がり、金融危機のリスクが高まります。

為替市場で気になるニュースとしては、スイスがついにスイスフラン高に対して介入すると言いだしたことです。これ以上の通貨高は国内産業にとってダメージが大きいということです。

日本とスイスが同時に介入と言いだしたことは重要です。

リスク回避の動きとして金(ゴールド)とスイスフランが買われていましたが、流れに変化が起こるかもしれません。

金と米ドルは逆に動くことが多いことはFXトレーダーによく知られていますが、今までドルから金とスイスフランに流れていたマネーが逆回転する動きが出る可能性も出てきたということです。

コロナ・ショックの時もドルが買われましたが、金融不安が起こると決済資金としてドルが必要になることも多く、他の通貨よりもドル需要が高まります。

また、株などが暴落して追加証拠金(マージンコール)が発生した場合は、資産を現金化する動きが加速します。この時も世界の多くのドル建て金融資産の証拠金としてドルが必要になります。

ということで、有事のドル買いの流れが強まるかどうかにも注目したいです。

先週末に発表された米国の雇用統計は悪い数字でしたがドルは強い動きとなっています。

中東情勢が長引けば、エネルギー問題から円やユーロが売られやすくなるということもあり、ドルや資源国通貨は買われやすくなる可能性があります。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

先週のドル/円は円安の動きとなっています。

先週末は158円あたりでマーケットが終わっていますがテクニカル的には158円あたりの抵抗を  
超えてくると1月高値の159円台前半あたりがターゲットになってきます。

159.5円を超えると160円が視野に入りますが160円手前では介入警戒感が強まるため  
高値買いは避けたいです。

下値は157.2円を割り込むと156.5円あたりのサポートが意識されます。

ここも割り込むと155.5円あたりが下値のメドとなりそうです。

#### <気になるクロス円>

クロス円は動きがバラバラです。

資源国通貨の豪ドルやカナダドルは堅調な動きとなっていますがユーロやNZドルは停滞した動き  
となっています。

カナダドルは高値更新してきたので、2024年の高値の118円台後半を超えてくる動きになるか  
注目したいです。カナダは産油国なので原油高は追い風になりそうです。

南アフリカランドは週足で陰線となっており、チャートの形が崩れてきそうなので注意がいります。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では1月貿易収支、10-12月期GDP(改定値)などがあります。

米国では2月中古住宅販売件数、2月消費者物価指数、2月月次財政収支、1月貿易収支、前週分  
新規失業保険申請件数、1月住宅着工件数、10-12月期GDP(改定値)、1月個人消費支出(PCE  
デフレーター)、1月耐久財受注、3月ミシガン大学消費者信頼感指数、1月雇用動態調査(JOLTS)  
求人件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで1月鉱工業生産、ドイツで1月製造業新規受注、2月消費者物価指数  
などがあります。

ほかには、中国で2月貿易収支、トルコで政策金利、英国で1月GDPの発表などがあります。